

ご挨拶

## 現宗研発足四十周年の年を迎えて

(日蓮宗現代宗教研究所長) 久 住 謙 是

宗教は本来、人間の安寧と国土の平安をめざすものである。宗教は、人間の不完全を是正し、よりよく生きるための叡智の営みである。

而るに、宗教が暴力や殺戮を是認し、宗教が対立して人間性を傷つける争いを助長させる悲劇が繰り返されている。

全人類を視野に入れた普遍の宗教が、待望されている。

比較宗教学が深まり、宗教間の交流と平和協力が進められているいま、日蓮聖人の宗教、立正安国の思想を現代に問い、発信することが求められているといえよう。

昭和三十九年の日蓮宗第十四定宗で、「現代宗教研究所」の発足が可決された。本年は、発足して四十周年を迎える。

「現代における諸問題の日蓮主義的把握に関する研究」という規程は、今日こそ重みを増すのではないか。

この節目にあたり、現宗研発足の精神を継承し、日蓮聖人が何を説き何を願われたのかを、現代の視野に立った調査研究活動によって進めてゆきたい、と願うものである。